

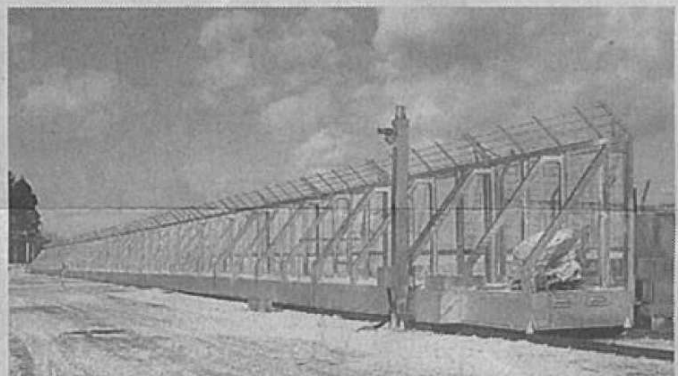
# 引き戸門扉シリーズ化

## 応緑、用途ごとに製品名

【姫路】 応緑（兵庫 県姫路市、河越祥郎社長）は、主力事業である引き戸門扉（スライド式ゲート）を、用途ごとに製品名を付けてシリーズ化した。引き戸門扉は受注製品であるため、従来は製品名を付けていなかった。あらためてシリーズを明確化することで、新規ユーザーへの訴求力を高める。新規受注やリニューアル、メンテ

ナンス事業などで、同事業の25年4月期売上高を22年4月期見込み比で約3・5倍の7億円に拡大する狙い。シリーズ化したのは空港向けの大型電動門扉「エアポートゲート」と、門扉幅を変えられる「セパレートゲ

ート」、勾配地にも対応できる「スロープゲート」の3シリーズ。エアポートゲートは空港で使用されるため100tを超える超大型にも対応。空港内では管理者が異なるエリアごとの境界に使用され、航空機が通過する



▲ 空港に設置されているエアポートゲート

際に何度も開閉の必要があるため、バックアップモーターへの切り替えや停電時のハンド

ル操作での開閉に対応している。セパレートゲートは連結されている分離可能な門扉で、必要に応じて幅を変えられる。スロープゲートは勾配地でも手動操作で開閉でき、下り側への開閉操作時に門扉が加速することを抑制する自動ブレーキがかかる。